



先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/03/01

## 変化する市場の関心事に注意

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日米経済指標と相場のムードを確認	2 - 3
		予想レンジ: 75.50 ~ 84.50 円	
<u>カナダ/円</u>	➡	外部要因睨みでリスク敏感相場に	4 - 5
		予想レンジ: 78.00 ~ 85.00 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



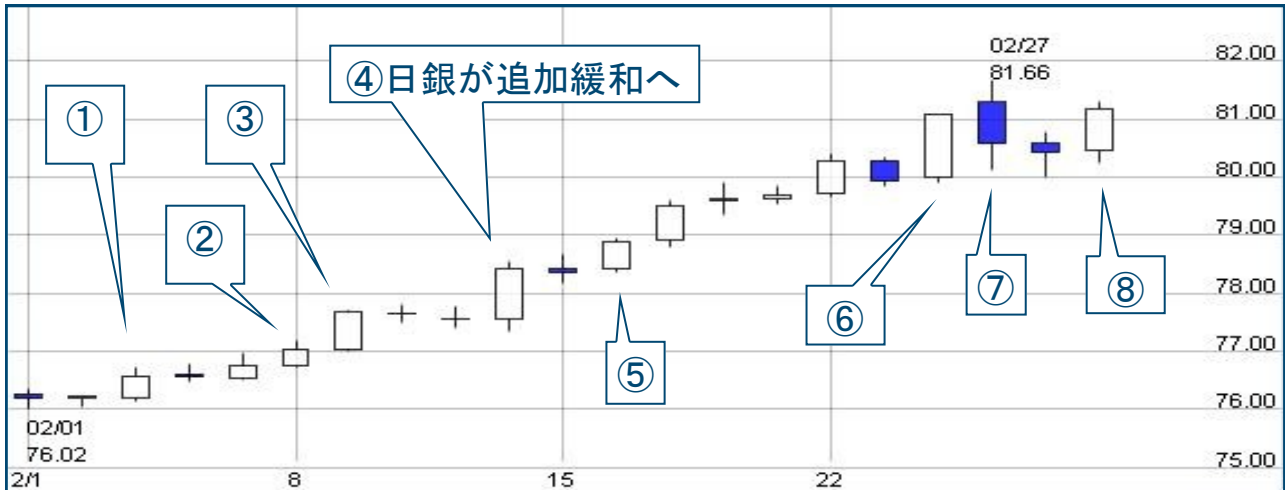
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# USD / JPY

## ドル/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	76.26円	81.66円	76.02円	81.17円



①	3日、22時30分発表の米1月雇用統計では、非農業部門雇用者数が24.3万人増(市場予想:14.0万人増)と2011年4月以来の増加幅になった上、失業率は8.3%(同:8.5%)と2009年2月以来の水準まで低下した。これを受けて、ドル/円は急騰。さらに、24時発表の米1月ISM非製造業景況指数が56.8と予想(53.2)より強い結果になると、76.73円まで値を伸ばした。
②	8日、本邦12月経常収支が3035億円の黒字(予想:3401億円の黒字)、12月貿易収支が1458億円の赤字(同:1350億円の赤字)と市場予想よりも悪い結果だったことを背景に円安が進行した。
③	9日、22時30分に発表された米新規失業保険申請件数が35.8万件と予想(37.0万件)を大きく下回り、2008年4月以来の強い結果となったことを受け、ドル/円は上昇。さらに、ギリシャのパパデモス首相が「ギリシャ連立与党と欧州連合(EU)、国際通貨基金(IMF)による支援条件である改革案で合意」と発表したことを受け、市場全体でリスク回避ムードが後退すると、米国債利回りが上昇。これがドル/円の上昇に拍車を掛け、77.72円までドル高・円安が進んだ。
④	14日、日銀が長期国債の買い入れ枠を10兆円追加することを決定。予想外の緩和を受けてドル/円では円売りが先行。このムードはNY市場にかけて続き、78.54円まで値を伸ばした。
⑤	16日、ロンドン8時(日本時間17時)のフィクシングに向けたまとまった規模の円売りを背景にドル/円は上昇。米新規失業保険申請件数が34.8万件(市場予想:36.5万件)、米1月住宅着工件数が69.9万件(同:67.5万件)と予想より良好だったことを受けたドル買いも追い風となり、78.96円まで値を伸ばした。
⑥	24日、仲値公示に向けたドル買いや格付け会社ムーディーズの記者懇親会で日本国債の格付けについてネガティブな発表があるのではとの思惑から、ドル/円は上昇。さらに、米2月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値や、米1月新築住宅販売件数が市場予想よりも良好だったことから一段高となった。
⑦	27日、前週末の上昇を引き継ぎ、早朝に81.66円と2011年5月31日以来の高値をつけた。ただ、本邦の2月上旬の貿易収支が黒字であった事が発表されると、それまで本邦の貿易赤字をはやした円売りが後退。その後欧州株の軟調さを背景にクロス円が下げるとドル/円は80.13円まで連れ安した。
⑧	29日、米第4四半期国内総生産(GDP)・改定値が前期比年率+3.0%と速報(+2.8%)から上昇修正された上、米2月シカゴ購買部協会景気指数が64.0と前月値(60.2)、市場予想(61.0)ともに上回ったことを受け、ドル/円は上昇。さらに、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が議会証言にて「失業率は予想より速く低下している」などと発言し、追加金融緩和について具体的に言及することなかったことから、全般的にドル高が進行。NY市場の引けにかけては81.31円の高値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## USD / JPY

## 今月のポイント

2012年2月のドル/円相場は76.02円～81.66円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.5%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は日本の円売り材料(予想以上の貿易赤字、日銀の追加金融緩和)と、米国の景気回復期待(良好な経済指標結果など)を背景に、月初からほとんど一方調子でドル高・円安が進んだ形だった。

ギリシャの債務問題については、債務交換に参加する民間金融機関がどれだけいるか不透明感が強く、まだまだ予断を許さない状態が続いている。また、その他問題国についての不安材料も散見される。しかし、市場の目線は一旦、米国の景気回復具合や日本の財政や緩和姿勢の方に移ったような形になっており、目先はこのムードが継続する公算が大きい。とはいえ、昨年3月下旬から4月上旬にかけて、米国の早期利上げ期待を背景に急速かつ大幅に上昇したものの、その後、ギリシャのデフォルト懸念や日本の震災・原発に対する懸念などによってリスク回避ムードが強まると、急激にそのムードが剥落し、ドル/円も再度下落トレンド入りする、ということがあったことを考慮すると、単純にドル買い・円売りで臨むのも怖い局面ではある。今回も、日米の円売り・ドル買い材料の目新しさが薄れてしまうと、同様の失速を見る可能性があるため、日米の関連指標や市場のムードを随時確認し、細かく取引していきたいところだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 78.50～84.50円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

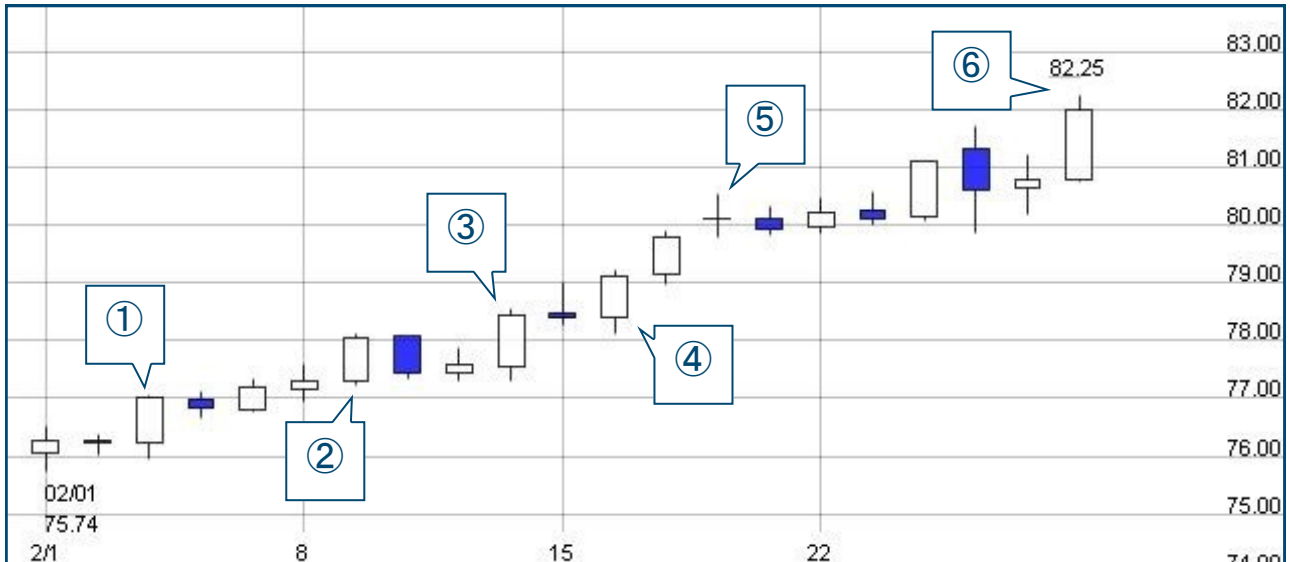
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(木)	ユーロ圏首脳会議	3/15(木)	2月米生産者物価指数
	2月米ISM製造業景況指数		3月米フィラデルフィア連銀景況指数
3/2(金)	EU首脳会議	3/16(金)	2月米消費者物価指数
3/5(月)	2月米ISM非製造業景況指数		2月米鉱工業生産
3/7(水)	2月米ADP全国雇用者数		3月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値
3/8(木)	第4四半期日GDP・二次速報	3/20(火)	2月米住宅着工件数
	1月日経常収支	3/22(木)	2月日通関ベース貿易収支
3/9(金)	1月米貿易収支	3/23(金)	2月米住宅着工件数
	2月米雇用統計	3/27(火)	3月米消費者信頼感指数
3/13(火)	日銀金融政策決定会合(12日～)		3月リッチモンド連銀製造業指数
	2月米小売売上高	3/28(水)	2月米耐久財受注
	FOMC政策金利発表	3/29(木)	第4半期米GDP・確報値
3/15(木)	2月米ニューヨーク連銀製造業景況指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# CAD/JPY

## カナダ/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	76.04円	82.25円	75.74円	82.02円



- ①** 3日、加1月雇用統計で失業率が7.6%(予想、7.5%)、雇用ネット変化が0.23万人増(予想2.20万人増)と、予想よりも弱い結果となった一方で、その後発表された米1月雇用統計が、失業率が8.3%に改善(前回8.5%)、非農業部門雇用者数は事前予想(14.0万人増)を大幅に上回る24.3万人増となった。カナダ/円は加雇用統計発表後に売られる場面も見られたが、米雇用統計の強い結果を受けて、米国株や原油価格が大幅高となったことから77.07円まで上昇した。
- ②** 9日、中国1月消費者物価指数が前年比+4.5%と予想(+4.0%)を大きく上回ると、同国の金融緩和への期待が後退したとして資源国通貨全般に売りが出た。しかしその後、米新規失業保険申請件数が35.8万件に改善したほか、ギリシャ首相が同国連立与党の党首らが、第2次支援の条件のひとつである緊縮財政政策に合意したと発表した事を受けてリスク回避ムードが後退する中、カナダ/円は78.11円まで上値を伸ばした。
- ③** 14日、日銀が金融政策決定会合終了後に、10兆円規模の国債買い入れ増額という予想外の追加緩和策を発表すると、円全面安の展開となり、カナダ/円は78.56円まで上昇した。
- ④** 16日、米新規失業保険申請件数(34.8万件)と米1月住宅着工件数(69.9万件)がいずれも改善した事を受けて時間外のNYダウ先物がプラス圏に切り返すと、カナダ/円も上昇。その後、ユーロ圏筋の話として「ユーロ圏財務相は20日にギリシャ第2次支援を承認する見込み」と伝えられた事などからNYダウ平均株価が3年9ヶ月ぶりの高値水準に上昇すると、カナダ/円は79.22円まで上値を伸ばした。
- ⑤** 20日、本邦貿易収支の大幅赤字を見越した円売りや、中国当局が前週末18日に、預金準備率を0.50%引き下げた事を背景に、カナダ/円は80.53円まで上昇した。その後本邦1月通関ベース貿易収支は1兆4750億円の赤字となったが、赤字額が予想(1兆4563億円)の範囲内と受け止められ、発表後に円が買い戻されると、カナダ/円は反落した。
- ⑥** 29日、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が議会証言にて「労働市場にポジティブな動きが見られる」などと発言し、追加金融緩和には言及しなかった事を受けてドル/円が81円台を回復すると、これにつれてカナダ/円は82.25円の高値を付けた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今月のポイント

2月のカナダ/円相場は75.74円～82.25円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは7.9%の大幅上昇(カナダドル高・円安)となった。

カナダ景気を大きく左右する米国の景気に回復期待が台頭した事に加え、日本の貿易収支や経常収支の悪化観測、日銀の緩和姿勢強化が円売り材料となった事から、2月のカナダ/円は大幅に上昇した。また、ギリシャ向け第2次支援が正式に承認された事や、原油価格が大きく上昇した事もカナダ/円の上昇要因となった。3月についても、こうしたカナダにとっての外部要因が、カナダ/円相場を動かす材料になるだろう。基本的に、主要国の中央銀行が緩和姿勢を続ける中では、株や原油などのリスク資産が買われやすく、カナダドルの上昇要因になると考えられる。しかし、過度の懸念は一旦後退したとは言え、不安はくすぶり続けるギリシャ情勢や、米国景気の先行きに対する見方の変化がリスク回避の動きにつながる可能性は否定できない。

欧州情勢については、1日のユーロ圏首脳会議や月初に期限を迎えるギリシャ債務交換プログラムへの民間金融機関の申し込み(参加率)、20日のギリシャ国債大量償還などが注目されよう。

米国については、9日の米雇用統計や13日の小売売上高などの経済指標に加え、13日の米FOMCが注目される事になるだろう。その他、2月の円全面安の一因となった本邦経常収支(8日)や貿易収支(22日)の発表も注目される。(神田)

(予想レンジ:78.00～85.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(木)	ユーロ圏首脳会議	3/9(金)	2月米雇用統計
	2月米ISM製造業景況指数	3/13(火)	日銀金融政策決定会合(12日～)
3/2(金)	12月加GDP		2月米小売売上高
	第4四半期加GDP		米FOMC政策金利発表
	EU首脳会議	3/20(火)	2月米住宅着工件数
3/5(月)	2月米ISM非製造業景況指数	3/22(木)	2月日本通関ベース貿易収支
3/6(火)	2月加Ivey購買部協会指数・季調済		1月加小売売上高
3/8(木)	1月日本経常収支	3/23(金)	2月加消費者物価指数
	加中銀政策金利発表	3/27(火)	3月米消費者信頼感指数
3/9(金)	2月中国消費者物価指数	3/30(金)	1月加GDP
	2月加雇用統計		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。